

薬莢の海

2005年11月4日(金)
19:00開演(30分前開場)

劇団やませ

『薬莢の海』
に寄せて

文／作家・阿部 幹

夏の日、強い日差しを受け無島神社の境内にある海防艦稲木の慰霊碑は、賑やかなうみねこの声のなかに建っていました。平和で穏やかな海を見下ろすように。今年も八月九日しめやかに慰霊祭が行われたと新聞が報じています。

劇団やませ、今年の公演は阿部幹氏の小説『薬莢の海』を原作に舞台化したしました。稲木の沈んだ海に向かい暮然に生きる男と妻を海で亡くした男の出会いを軸に、潮の匂いのする舞台を創りたいと稽古に励んで居ます。

「薬莢の海」公演に向けて練習に励む「劇団やませ」のメンバー達。



「劇団やませ」が『薬莢の海』を芝居にしてくれるという。ありがたいことである。

代表の大館登美子さんの電話を受けたとき、くらくらと軀が沈むのを感じた。電話をおえると、時間をおいてうれしさがこみあげてきた。

おもえば、この小説を書きたいとおもったのは、文集「海防艦稲木を偲んで」のなかに「もし、この世に命あるならば、呉海軍基地、稲木慰霊碑に参拝してもらいたい」の一節を見つけたときからであった。あらためて読みなおすと、「S番機銃員のS一水がいないと言う」とも書かれてあった。

海防艦稲木は、終戦時の八月九日、アメリカ軍艦載機の攻撃を受けて、鮫の海に沈んだ。

当時、私は小学五年生で、高台に掘られた防空壕の上でそれを見た。

七月、私は爆音が響くなか、荷物を背負って逃げ惑った。防空壕では、布団の下で汗まみれになり、薬莢が落ちる音に慄いた。

それらの光景が、ときとして鮮明な映像を結ぶ。いったい、Sとしか書かれていない行方不明の兵



士はどうしたのだらう。空襲前後酒宴があったというから、海に嵌まったのかもしれない。もし、そうだとしたら、なにがSをそうさせたのか。そんなおもいを私は何年もくり返し、人間の生きざま、あるいは死にざまを考えた。

十年ほど前になろうか、書けそうな気がやっとした。しかし私は書き出せなかった。人間の生きざまにかかわって、愛の形が気になるのであった。いのちを賭けてまでもする行為に、愛の真があるのではないか。突きつめれば、愛はそのような形をもつのではないか。私にそれができるか。このことも入れたいと私はおもった。書き出したとき、それから五年はたっていたが、そこに知的障害児のこともいれることにし

10月のFriday Amusement Negative Shop

■10月7日(第609回)

ひま人〜DJ編〜

構成・出演：田中勉

■10月14日(第610回)

三浦哲郎作品集リーディングvol.29

構成・出演：安達良春

■10月21日(第611回)

三浦哲郎作品集リーディングvol.30

構成・出演：田中勉

■9月28日(第612回)

Movie Colosseum scene.1

選者：安達良春

※特別番組以外全て午後7時30分〜、料金/一般500円 高校生以下100円
※料金改定しました！高校生以下は、特別番組以外100円でご覧になります。チケットはスペースベンにて販売。スペースベンの上演内容は、ホームページまたはメールマガジンでご確認下さい。

tsutomu_tanaka ☎070-5095-2028

スペースベンIPアドレス <http://spaceben.com/>

Eメールアドレス owner@spaceben.com

■演劇空間 スペースベン

八戸市柏崎1-11-8

☎ 0178-43-9876

FAX 03-5908-9120

「薬莢の海」

日時/11月4日(金) 19:00開演(開場30分前)

場所/八戸市公会堂文化ホール

料金/一般2,000円(当日2,500円)

学生1,000円(当日1,200円)

チケット/長崎屋ラピア店・三春屋・さくら野・

八戸市民劇場・木村書店 他

問い合わせ/劇団やませ ☎0178-44-8893

※12月17日(土)には秋田県小坂町「康楽館」

にて「十三夜」の招待公演が決定!

